



# 統計

# たしなみ

平成25年版



土佐清水市

# 総目次

1. 地 勢 と 気 候	1
2. 人 口	7
3. 農 業 ・ 林 業	25
4. 水 産 業	34
5. 事 業 所	41
6. 製 造 業	44
7. 商 業	48
8. 観 光	49
9. 所 得	51
10. 水道・住宅・保健・衛生	52
11. 運 輸 ・ 通 信	61
12. 防 災 ・ 消 防	64
13. 教 育 ・ 文 化	69
14. 社 会 ・ 福 祉	74
15. 行 政	78

# 目 次

## 1. 地勢と気候

1. 位置および面積	1
2. 市域の変遷	2
3. 土佐清水市略図	2
4. 地目別土地面積	3
5. 地目別土地課税対象面積	3
6. 山岳・河川	3
7. 平成24年月別気象概況	4
8. 年次別気象概況	5
9. 年間極値	5
10. 平成24年月別平均気温	6

## 2. 人 口

全国・県下市町村別人口の推移	7
1. 地域別世帯数・人口	9
2. 地区別世帯数・人口	10
3. 人口の推移	16
4. 人口・世帯数の推移	17
5. 地域別人口割合の推移	17
6. 人口動態	18
7. 自然増減の推移	18
8. 人口動態(社会)	19
9. 社会増減の推移	19
10. 外国人登録国籍別人口	20
11. 産業別15歳以上就業者数	20
12. 産業別就業者数の推移	21
13. 年齢別(5歳階級)人口ピラミッド	21
14. 年齢別人口の推移	22
15. 労働力状態	23
16. 年齢三区分別人口構成の推移	23
17. 平成17年国勢調査人口構成比較	24
18. 平成22年国勢調査人口構成比較	24
19. 高齢者世帯数	24

## 3. 農 業 ・ 林 業

1. 経営耕地面積規模別農家数	25
2. 経営耕地面積規模別農家数の推移	25
3. 年齢別世帯数	26
4. 年齢別世帯数の推移	26
5. 経営耕地面積	27

6. 経営耕地面積の推移	27
7. 農用機械台数の推移	27
8. 作物類別収穫面積	28
9. 作物類別収穫面積の推移	28
10. 家畜飼育農家数と頭羽数	29
11. 家畜飼育農家数と頭羽数の推移	29
12. 農産物販売金額規模別農家数	30
13. 農産物販売金額規模別農家数の推移	30
14. 農産物販売金額1位の部門別農家数	31
15. 農産物販売金額1位の部門別農家数の推移	31
16. 保有形態別林野面積	32
17. 林種別林野面積	32
18. 保有山林面積規模別農家林家数と保有山林面積	32
19. 保有山林面積規模別農家林家数と保有山林面積の推移	33

## 4. 水 産 業

1. 漁業経営体の基本構成	34
2. 種類別・規模別漁船隻数の推移	34
3. 経営組織別経営体数の推移	35
4. 漁業世帯数	35
5. 漁業世帯数の推移	35
6. 経営体階層別経営体数	36
7. 経営体階層別経営体数の推移	36
8. 15歳以上男女別漁業就業者数	37
9. 15歳以上男女別漁業就業者数の推移	37
10. 漁業種類別経営体数	38
11. 漁業種類別経営体数の推移	38
12. 漁業経営体数 (11月1日現在の海上作業従事者数別)	39
13. 漁獲金額別経営体数	39
14. 組合別漁獲高	40

## 5. 事 業 所

1. 産業大分類・事業所及び従業者数	41
2. 従業者数・事業所数	42
3. 産業別事業所数の推移	42
4. 卸売業・小売業(中分類)	43
5. 製造業(中分類)	43

<b>6. 製 造 業</b>	
1. 組織別事業所数・従業者数の推移	44
2. 事業所・従事者・出荷額の推移	44
3. 事業所数の推移	45
4. 従業者数の推移	45
5. 出荷額の推移	46
6. 規模別事業所・従業者数および製造出荷額等	47
7. 事業所数・従業者数の推移	47
<b>7. 商 業</b>	
1. 商店数・従業者数・商品販売数	48
2. 業態別商店数・従業者数・年間販売額の推移	48
<b>8. 観 光</b>	
1. 観光客の推移	49
2. 観光客数・修学旅行客数および消費額の推移	50
<b>9. 所 得</b>	
1. 産業別市内総生産	51
2. 名目経済成長率	51
<b>10. 水道・住宅・保健・衛生</b>	
1. 上水道給水状況	52
2. 簡易水道の給水状況	52
3. 木造家屋	53
4. 非木造家屋	53
5. 構造別非木造家屋	53
6. 所有者区分による家屋	53
7. 公営住宅	54
8. 建築確認件数の推移	54
9. がん検診の受診状況	55
10. 生活習慣(成人)病健診状況	55
11. 病類別死亡者数	56
12. 年齢別死亡者数	56
13. 国民健康保険の加入・給付	57
14. 国民健康保険税の課税状況	57
15. 医療施設数・病床数	58
16. 医療従事者数	58
17. ごみ処理の状況	59
18. し尿処理の状況	59
19. 介護保険の認定者・給付状況	60
<b>11. 運 輸 ・ 通 信</b>	
1. 市内自動車保有台数	61
2. 電話	62
3. 郵便物取扱状況	62
4. 郵便施設	62
5. フェリーの利用状況	63
6. フェリー利用の推移	63
<b>12. 防 災 ・ 消 防</b>	
1. 消防団組織	64
2. 消防力の現況	64
3. 消防水利	64
4. 火災・救急の状況	65
5. 原因別火災発生状況	65
6. 犯罪の発生・検挙数	66
7. 交通事故の発生状況	67
8. 原因別交通事故数	67
9. 航路標識	68
10. 海難発生状況	68
<b>13. 教 育 ・ 文 化</b>	
1. 保育所・幼稚園	69
2. 小学校	69
3. 中学校	70
4. 中学校の進学状況	71
5. 児童・生徒の体位	71
6. 清水高等学校の進学状況	72
7. 清水高等学校教職員数・生徒数	72
8. 社会教育施設の状況	72
9. 蔵書冊数	73
10. 蔵書貸出状況	73
<b>14. 社 会 ・ 福 祉</b>	
1. 生活保護世帯の状況	74
2. 母子世帯数の状況	74
3. 療育手帳所持者の状況	74
4. 児童手当・児童扶養手当の給付状況	75
5. 身体障害者の状況	75
6. 国民年金の受給状況	76
7. 老齢福祉年金受給状況	76
8. 社会体育施設の状況	77
<b>15. 行 政</b>	
1. 歴代市長	78
2. 歴代助役・副市長	78
3. 歴代収入役・会計管理者	79
4. 歴代教育長	79
5. 歴代議長	80
6. 土佐清水市機構組織図	81
7. 職員の定数と現員数	82
8. 選挙投票状況	83
9. 年度別一般会計歳入決算額	86
10. 年度別一般会計歳出決算額	88
11. 年度別普通会計性質別経費の推移	89
12. 年度別市税収入状況	90
13. 特別会計年度別決算額	91
14. 市債高の状況	93
15. 公有財産(土地および建物)	95

## 土佐清水市の成りたち

本市一帯にいつごろから人が住み、どうして文化が発展して今日に至ったかを考察することは、本市の将来に対する行政、経済等の施策資料ともなるがあまりくわしくない。

しかし、大和民族の住む以前に先住民族が居住していたことは以布利(赤い岩)、龍串(美または奇)等の地名がアイヌ話より由来する等の説を知ればうなづける。また、近くは宿毛貝塚の遺跡、その他遺物から考察して本市一体にアイヌ民族が先住していたものと思われる。

それより後、大和時代第10代崇神天皇の御大(紀元561)に波多(幡多)国造として天韓襲彦が東山村古津賀あたりに赴任し当地を治めた。これにより当時すでに幡多郡一帯で多くの民が居住し、社会生活を営んでいたものと思われ。

奈良時代に入って中央に律令が制定されるとともに地方には国司・群司を置いたが幡多は大方郷、鯨野郷、宇和郷、山田郷、牧田郷の5郷に分かれ、本市一帯は鯨野郷と称された。

これより後、平安時代嵯峨天皇の御大弘仁13年には、藤原良房の奏聞によって空海が足摺岬に金剛福寺を建立したが、紀元900年頃伊豆田神社が建立され他の2社(高千賀神社外1社)とともに波多3社として崇敬された。

本市一帯の文化は当時より金剛福寺、伊豆田神社を中心として発展したが藩政中は立石村、布村、下ノ加江村、鍵掛村、久百々村、大岐村、以布利村、窪津村、津呂村、大谷村、伊佐村、松尾村、大浜村、中浜村、清水村、越村、養老村、加久見村、横道村、奥益野村、下益野村、斧積村、三崎村、爪白村、有永村、宗呂村、下川口郷村、下川口浦村、大津村、貝ノ川郷村、貝ノ川浦村に分かれ、それぞれの村には庄屋が置かれて行政にあたっていた。この庄屋制度は約250年間にわたって続いた。

明治維新によって廃藩置県制度となり、庄屋制度も廃止され代わって郷長となったが、その後戸長と改称され、続いて明治8年4月には大区制がとられて立石、鍵掛、布、下ノ加江、久百々、大岐、以布利、窪津、津呂、大谷を第15区第4小区として、伊佐、松尾、大浜、中浜、清水、越、浦尻、養老、加久見、横道が第15区第5小区、三崎各村、下川口各村は合併して第15区第6小区に編成された。

明治12年第15大区各小区は分離し下ノ加江、窪津組合等の各組合に組織戸長を置いて行政にあたらせたが明治22年の町村制の施行にともない、伊豆田村、上灘村、清松村、三崎村、下川口村の5カ村に統合した。大正13年清松村は町制を施行したが後、清水町と改称、清水町は昭和16年に上灘村と合併し以布利、窪津の漁場を得て高知県下第一の町として発展した。

昭和28年10月町村合併促進法の施行によって産業、経済、文化をひとつにする下ノ加江町、清水町、三崎町、下川口町の4町が合併、昭和29年8月1日土佐清水市として誕生し今日に至っています。